

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：53901

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12304

研究課題名（和文）契沖における和歌注釈の研究

研究課題名（英文）A Study of Keichu's Waka Annotation

研究代表者

玉田 沙織 (TAMADA, Saori)

豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授

研究者番号：60707389

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、『古今余材抄』、『百人一首改観抄』、『新勅撰集評注』の翻刻および諸本のマイクロフィルム複写を用いてこれら作品の成立過程を考察しつつ注目する評語を選び、拾い出し、エクセルファイルへの入力と分析を行った。最終的にこれらの作品に絞った理由は、評語の量以外に、後世、特に現代への影響力の大きさと成立時期である。成立時期については、日本語研究や『万葉代匠記』執筆を経て、注釈の土台が築かれてから、最晩年に至るまでの関心を追う意図から選択した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

契沖による研究成果は広く知られ、活用されているが、手法や態度については、岩波書店『契沖全集』（1973-76刊）以後は数が少ない。本来、成果の活用は、それが記された文脈や意図といった注釈のあり方が判明した上で行うものである。契沖の使用する言葉の意味について、辞書的なものに止まらない、契沖独自の脈絡も含めた把握を目指した。契沖の評語については今なおまとまった分野の総合的な分析報告はないため、今後も追究を続け、成果公開による社会還元を行いたい。

研究成果の概要（英文）：In this study, by using microfilm copies and reprints of various versions of "Kokin Yozaisho", "Hyakunin Isshu Kaikansho", and "Shinchokusenshu Hyochu", I chose noteworthy analysis terms then compiling them in an Excel file and analyzing them, while considering the formation process of each piece. The reasons for narrowing down the pieces into these works was not only due to the number of annotations, but also the extent of their influence on later generations, especially the present day, and the time of formation. As for the time of formation, I chose them because I intended to follow Keichu's interests after his studies of the Japanese language and his writing of "Man'yo Daishoki", in other words, after building the foundation for annotation, until his final years.

研究分野：日本古典文学

キーワード：日本文学 古典 受容 和歌注釈 契沖

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世初期を生きた契沖(1640-1701)は博覧強記で知られ、「新注」とも呼ばれるその注釈的考察は、前代とは一線を劃する質量の文献に支えられている。本研究では、課程博士論文・若手研究 B「和歌注釈における民俗学的手法の基礎研究」(H26-28)・国文学研究資料館共同研究「読書行為としての『書入れ』の研究：契沖を軸に」(H26-28)の成果を踏まえ、契沖の和歌注釈のあり方を追究した。

契沖による研究成果は広く知られ、活用されているが、手法や態度については、岩波書店『契沖全集』(1973-76刊)以後は数が少ない。本来、成果の活用は、それが記された文脈や意図といった注釈のあり方が判明した上で行うものである。本研究では、契沖の使用する言葉の意味について、辞書的なものに止まらない、契沖独自の脈絡も含めた把握を目指した。

2. 研究の目的

本研究は、契沖が使用した文献の性質や特徴的な述語・言い回しの具体相について、和歌作品への注釈に特化して事例収集を行うことで、契沖の研究成果の再評価および分析理論の再確認を行うことを目的とした。現代でも参照されることが多い契沖の考察について、当時の当人の文脈から切り離すことなく適切に活用されることを目指したものである。

3. 研究の方法

本研究では、契沖の初期和歌注釈作品を皮切りに、マイクロフィルム複写資料と翻刻資料を用いながら、契沖の複数の評語を鍵語として拾い出してエクセルファイルへ入力し、その用い方を分析した。契沖著作の多くは段階的に、改訂を重ねながら成立しているため、作品ごとに複数資料を見比べて、成立過程を推測しながら評語の使用の変遷を見るという作業も行った。また、原本調査も行った。

4. 研究成果

改訂を重ねた作品は、重ね書きや貼り紙による不鮮明個所が生じるほか、契沖には墨以外に複色色を用いて記入する習慣も認められるため、マイクロフィルム複写の情報を補完する原本調査の必要性は通常よりも高くなる上に、長時間を要した。そして、研究着手の後に、事前調査以上に多くの契沖著作が貴重書として扱われ、保存状態も相まって閲覧が叶わないことが判明し、さらには COVID-19 により、閲覧制限や感染症蔓延下の妊娠出産による出張制限も発生したため、規模は当初の予定よりも小さくならざるを得なかった。

本研究では、『古今余材抄』『百人一首改観抄』『新勅撰集評注』の翻刻および諸本のマイクロフィルム複写を用いてこれら作品の成立過程を考察しつつ注目する評語を選び、拾い出し、エクセルファイルへの入力と分析を行った。最終的にこれらの作品に絞った理由は、評語の量以外に、後世、特に現代への影響力の大きさと成立時期である。成立時期については、日本語研究や『万葉代匠記』執筆を経て、注釈の土台が築かれてから最晩年に至るまでの関心を追う意図から選択した。契沖の評語についてはまとまった分野の総合的な分析報告はないため、今後も追究を続け、

成果公開による社会還元を行いたい。ゆくゆくは代表者の過去の研究成果も活用し、日本の学術研究の基礎を作った契沖の学問について、多角的な分析を行いたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 東原伸明・山下太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 398
3. 書名 大和物語の達成：「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価：武蔵野書院創業百周年記念企画	

1. 著者名 名古屋国文学研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 480
3. 書名 風葉和歌集新注3	

1. 著者名 名古屋国文学研究会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 372
3. 書名 風葉和歌集新注4	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------